

平成 30 年度 第 1 回舞鶴市総合教育会議 会議録

- ◎ 開催日時 平成 30 年 11 月 7 日（水）午後 1 時～2 時 30 分
- ◎ 開催場所 舞鶴市役所中会議室（別館 5 階）
- ◎ 出席者 舞鶴市長 多々見 良三
教育長 奥水 孝志
教育委員 荻野 隆三
教育委員 岸本 純子
教育委員 富川 唯夫
教育委員 内藤 行雄
教育委員 堀尾 真由美

1. 市長挨拶
2. 出席者紹介
3. 報告事項
教育振興大綱事業計画書について
—事務局から報告—
4. 協議事項
次期舞鶴市教育振興大綱の策定について

<協議>

（市長）

○ 次期教育振興大綱の策定に向けて、教育委員の皆さんから積極的に御意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。まず初めに、教育委員の皆様から、現行の教育振興大綱に対する感想やご意見をお聞かせいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（教育長）

○ 現在の大綱についての感想ですが、全体的な印象・イメージは、大変バランスの良い大綱になっている。教育に対する考え方をまとめたものなのであまり細かな文言はないが、かえってその方が、トータル的にバランスが良い。「ふるさと舞鶴を愛し 夢に向かって将来を切り拓く子ども」は、こういう子どもを育てていくという一つのゴールである。

○ 「ふるさと舞鶴を愛し」は具体的で効果的な言葉。「夢」という言葉は、捉え方も内容も子どもによってさまざまだが、一つの目標だと考える。子供が目標を達成するために、努力して積極的に行動するという子どもの頑張りが見られるので、夢を実現するためにどんな行動をしたらよいか、ということは子ども自身がアクティブに考えるので、私たち大人がそのことを支援していかなければならない。

○ 「将来を切り拓く」。この文言はこれからの時代には必ず要る。変化の激しい時代を自ら切り拓いていくということに対応するために必要と感じる。基本理念については、「0歳」が一つのキーワード。就学前、具体的には乳幼児教育ビジョンの策定などは大変素晴らしい視点である。

○ 言い古された言葉だが、三つ子の魂百までという。以前、中学校が荒れていて困難な時代があった。非行に走る子どものそれまでを遡ったことがある。ある先輩の先生が幼稚園・保育所時代に非行の芽が出始めていると言った。やっぱり幼児教育は大切であると言われていたことを感じている。

○ 0歳からの視点は大切。切れ目ないということ。これは小中一貫教育の考え方と通じるところがあるし、子供の成長段階に応じて質の高い教育を進めていかねばならないが、保育所・幼稚園から小学校、小学校から中学校と、スムーズに接続して初めて質が高まっていくと思う。それぞれの段階で段差があると子どもたちにとっては良くない結果が出てしまうので切れ目ない支援を繋げることが大事。

(荻野委員)

○ 振興大綱が定められて1期目が終わろうとしている。大綱の中に方向性がしっかり位置づけられて、その中で施策がいろんな形で行われ、大きな役割を果たしてきているとの全体の印象。

○ 感想として2点。1点目は、「切れ目ない質の高い教育の充実」。これが大きな方向性を示したと感じている。乳幼児教育が重視され、市の幼稚園・保育園の中で熱心に研究され、積極的に取り組まれてきたその成果の現れ。そのことを丁寧に小学校につないでいくと、小学校教育の充実・安定に大きな役割を果たす。

○ 6年生が中学校との交流を通じて、不安を感じる度合いが軽減されて、希望を持って、クラブや勉強に頑張ろうと中学進学に向かっていていると聞く。小中学校の先生方が一緒になって授業づくり研究会の中で相互の理解が深まってきている。これらで、子どもたちにとって過ごしやすい学校、そして学びやすい学習環境が、きっとさらに進んでいこうと期待している。

○ 2点目は、「育てたい子ども像」について。大きな目標であり、位置付けがしっかり示されていると思う。前段の「ふるさと舞鶴を愛し」は、学力診断テストの質問紙の結果では、比較的舞鶴の子どもは地域行事に多く参加しているという結果がある。地域と学校との繋がり、地域と家庭の繋がりの中で育っている。後段の「夢に向かって」の部分が、まだまだ課題があると感じる。1点は、舞鶴の地域性。都会と比べるといろいろな意味で刺激も少ないしのんびりしている。自分の将来を展望したり考えたりする機会が少ないことが、原因として

考えられる。

○ 市長が中学2年生に話をされる中で、「志を立てる」ということの大事さを話された。これは重要なこと。ただ学校教育を振り返ると、「志を立てる」ためにはこんな仕事があるとか、その中で人はこんな思い・考えで仕事を通じて社会で役立つように頑張っているという部分を、もっともっと情報として与え感じさせたり考えさせたり、一言で言うとキャリア教育ですが、その部分が現状まだまだ弱いかなと感じている。大綱の中で一番頭に掲げていく以上は、どういう取組を通じて子ども達に届いていくか、さらによく考えていかねばならない。

○ 意見として2点ほど。1点目は、2番の「教育環境の充実」の中に、ICTを活用した環境の整備促進を図ると示されている。技術革新が激しく進む中で、ICT環境を学校に取り入れることが非常に重要。その中から情報を取り出し、判断して考え、人に伝え、まとめたり表現したりしていく。そういった力が、これから知識基盤社会といわれるが、子ども達に付けることが重要。ICT環境整備はお金がかかるが、ある程度、年次計画等も定めながら順次取り組んでいってもらえると嬉しい。

○ もう1点は、コミュニティ・スクールの取組。現在でも学校と地域の連携は、いろいろ各学校が工夫して行われているが、連携から考えると一段先に進めていく取組。地域社会にも、学校教育に関わる一定の役割と責任を担っていただく内容も含んでいるのではないかと。基本的に考えると、学校が教育機関として、これまで非常に多くのことが入って来て、地域・家庭教育、学校教育のバランスを考えると入りすぎて歪みが出てきた。その是正も背景にあるのではないかと。

○ 一方、学校というのは地域コミュニティの中心にあるので、「地域づくり」という視点から、学校と地域との関係から可能性がある。もちろん防災拠点の位置付けもあるが、地域に、少子高齢化の中で、仕事を終えられた方が子どもと関わる中で生きがいを見つけられたり、特技を伝えてくださるといったことが図られていくと、地域と学校の関係も、新しい可能性が開かれていくのではないかと。子ども達も地域の方と関わることで、教育的に考えても効果がある。これから進められることだが、ぜひ、この取組が中身のあるものになってほしい。

(岸本委員)

○ 今回の振興大綱は、本当に素晴らしいなという印象。一つずつ確実に実行されている。ただ3年経ったので、計画したその結果どういったことが分かって、どういった課題が出てきたということも報告いただくと、先に繋がるのではないかと。

○ 「0歳から15歳」ということで「切れ目ない質の高い教育の充実」と謳われている。乳幼児教育も大変大事だと思っている。義務教育が15歳までなので、この先は、市はどう考えているのかなと思う。自分の住んでいる町を発展させていくためには、人を育てていくことが大事。つまりそれは教育であって、まさに大綱に掲げられていることを一つ一つ実行

していくことが大事だが、教育は0歳から15歳までと言われると、その先の高等教育までも、市は関わっていないとは言わないが、もっと関わっていただきたいと思う。

○ 中学校までのいじめ問題など、その先高校はどうかと考えたとき、あまり話が出てこない。人を育てるという意味では、少し中途半端な気がする。市内には府立高2校と私立高1校、高専があるが、やはり高等教育まで一貫した考えでもって市・府・国の垣根を越えて連携して教育を議論して、舞鶴のために人を育ててほしいと思う。

(富川委員)

○ 一口で言うと、バランスの良い大綱だと思う。方向性が定められており、位置付けも素晴らしい。「人づくりは教育から」というので、まさにこれを進めることは大変素晴らしいこと。とりわけ「ふるさと舞鶴」ということを挙げられている。「市長のふるさと講義」は、この振興大綱のある意味コアではないかと思う。舞鶴の素晴らしさを伝え、将来の夢を持つことは大変重要なこと。

○ 少し提案だが、私は歯科医師なので、小中一貫教育の推進事業を主要施策とされており、心身ともに健康な子どもの育成を合わせて考えるとき、市内の小学校全校で実施されているフッ化物洗口をできるところから中学校でも実施していただきたい。これには現場の先生方やPTAの保護者と幅広いかつ十分な協議が必要だと思う。それに伴う予算化も必要でありお願いしたい。歯の大切さ、食べる喜びを認識することが大変重要になってくる。心身共に十分になってないと学べない。

○ 朝食に関する児童アンケートについて、平成29年度は毎朝、朝食を食べている児童は小6が86.9%、中3は84.9%と高い割合となっている、最近は孤食とか共食がクローズアップされている。その内容を十分把握することが、これからの児童生徒の「知・徳・体」のバランスのとれた健全な子どもの育成に繋がる。例えば起床時間や食事時間、どのようなものを誰と食べているか、そういうことをすれば子ども達の様子が一層、より具体的になる。

○ 児童生徒の健全育成は、地域と学校と学力、そういう関係が非常に重要。前回の教育委員会の平成30年度の学校運営協議会の報告書では、地域的にいろんな問題点があるが、指摘された案件については、十分取り組む必要があるのではないか。

(内藤委員)

○ 大綱の骨子そのものについては、すべて網羅してあるので、細かなことは必要なく、これを骨子にして作ればよいと思う。一番初めにあるように、ふるさとを考え、そして夢を育てるということについて、全体を通して様々な施策が充実していると大変感心している。足りないことは、意見を聞き入れながら改善していただきたらと思う。「小1プロブレム」あるいは「中1ギャップ」の課題が従来からあった。特に舞鶴は街中と郊外の地域格差がある中

で、現在、保幼小の連携や、小中の連携が大変進み、従来の心配が大分改善されてきた。これからも施策を十分検討して実施してほしい。

○ 昨年度から学校運営協議会が市でも発足している。学校の中にあまりにも様々な問題が入ってきて、先生が随分エネルギーを使っているとの感想を受けている。せつかくできたものなので、地域で改善できることは十分検討してもらってもいいのではないかと。家庭や地域に課題を返してもいいと思う。今後も運営のあり方は工夫されると思うが、十分活用していただくと、働き方改革ではないが、本来の職務に戻れるのではないかと。余裕ができた部分は必ず学校教育に力が注がれると思う。

○ 学校を支えていくのは地域もあるが、教員がどれだけ仕事をするか、どうやって質を高めていくかということ。昔から教員は授業ができて当たり前。それ以外の部分で、例えば子どもを見る目や、親と関わる力、プラスアルファがその先生の資質。しかもその存在が学校にも大きな影響を与える。そういう先生を一人でも多く育てることが大切。研修であるとか、校内での研究会など、様々に取組をされていると思う。ただ、それが市全体になったり、良い先生の経験話をもっと聞く機会があったり、学校現場の課題の解決事例を研究したり。そういう機会があれば、もっと先生の役に立つのではないかと。

○ 府の市町教育委員の研修会で、府の教育長が言われたことの中に、最近先生の不幸事が多い、教育委員がもっとみてほしいとの話があった。結局はやはり先生の質とかではなく、先生が見る目が無かったり、最近、体罰が増えているというのは、子どもが見切れない、辛抱できない先生が増えてきているのではないかと。先生の質を高める、何かそういったことを教育委員会でも考えていかないといけないし、教育委員としてもいろんな形で協力していきたい。

(堀尾委員)

○ 大綱の理念や方針に「夢」というワードが繰り返し出てくる。保護者として子ども達を見ていると、今の子どもは目標を見つけられずに、とりあえず頑張っているケースが非常に多いと思う。「夢」という言葉は成長して現実との折り合いをつけている年代にとっては、返って遠くてリアルではないのでは。厳しい見方かもしれないが、現代の子どもが勉強や課外活動で物理的に非常に忙しい生活を送っている割には、社会に出ていく覚悟という意味では、かなりのんびりしていて、進路に向き合うのが遅いということも言えると思う。「夢」というのは志望とか目標に置き換えても良いわけですから、やはりこのワードははずせないのかなと考える。

○ 大綱の中身について、具体的な取組がしっかりあって、恩恵を受けている。特に地域の体験活動事業や夢チャレンジサポート事業は、子どもたちのモチベーションを上げている。ぜひ続けていってほしいと思う。現行の小中学校の授業というのは、平均よりも下の層に向けて底上げを図っている。できれば並行して上の層への仕掛けもあればと思う。

(市長)

○ 中学2年生に将来の夢や目標を持っているかと聞くと、3分の2はまだ考えてない、決めていない。これは非常に問題が多い。「夢に向かって」というのは正しいが、子どもだけで計画を立てられるのか、まだ不十分な年齢。頑張ってきた大人たちが講師として話をし、講演を聞く中で、子どもなりに夢を定めることもあるが、夢や目標は変わってもよい、目標の変更は構わない。目標を持つことが、日々頑張る秘訣となる。高校で何を学んで、どんな仕事につき、世の中のためになることをするのが、本来の目標であり、そのために勉強する。夢や目標というのは、大人側からある一定仕掛けないとなかなか単独で立てられない。中学2年生は十分志を立てられる年代だと思う。子どもを中心に先生や親たちが子どもの将来を語り合う。そういうきっかけづくりが重要。

○ 地域コミュニティが薄く、人と人の繋がりが弱くなっている。地域で育ててもらった重要性を小さなきに学んでいけば、大人になって地域に貢献しようという気になるが、今は頼らなくても一人で生きていけると勘違いしているのでは。先生が全てのことに関わるのは無理。臍に学校の先生が関わると本来の教育ができない。学校で解決できないことは助けを呼んで、しっかり本来の教育をする。先生や親を中心に皆で育てること。

○ 今日は次期大綱の策定の方向性について協議した。「育てたい子ども像」「基本理念」について、このあたりは概ね変えなくて良いというご意見だった。また5つの基本方針は、大幅の修正は必要ないというご意見だった。5つの方針について、追加・修正等あればご意見として伺いたい。

(教育長)

○ 今の時代というのを考えたときに、子どもに付ける力は微妙に変わっている部分がある。もちろん夢を持つのは普遍だが、いわゆる第4次産業革命といわれているので、今の子どもたちが社会に出ていくとき、将来半分の仕事が無くなっている。どんな力を付けていくべきか。文字に起こさなくても共通理解をしていく必要がある。

○ 例えば、AI・人工知能を生かして、会計士の仕事の中で、伝票のデータ作成はできるそうだが、会計士の仕事は無くならない。どう経営していけばよいか、コンサルタントの部分は人間でないとできない。そういう仕事は残っていく。そういう将来が来ると見据えたとき、どんな力が要るのかというところは、私たち大人が見据えて、子どもの力を付けていく必要がある。

○ これからは成績とか知識の量ではない。人間としての本質的な力が問われる時代が目の前まで来ている。悩んでいる会社の社長にきちんと自分の考えを伝えるとか、いわゆるコミュニケーション力がこれからの社会では求められる。その力を学校や社会、家庭でどう付けるか。いろんな内容・方法があるが、振興大綱が一つの発信の機会になればよいと思う。

○ 夢を持たせるためには大人とのふれあいが増えないと絶対に無理。一緒に晩御飯を食べる家庭はどれだけあるか。自分の部屋で食べるだけの家庭。そこでは子どもの夢は生まれにくい。加えて、最初の大綱に触れられていなかった働き方改革。先生という資源を生かしていくには、やはり本来の仕事に集中できるような時間が必要。文字に起こすのは難しいにしても、皆さんでそうだなという共通理解がしていただけるとありがたい。学校の指導上、いじめは大きな問題になるので、「心豊かな人間」というところですべて含んでいるが、そういうところにもスポットライトが当たればと思う。

(荻野委員)

○ 子どもたちに「夢を持ってほしい」ということについて、コミュニティ・スクールと関わって考えたときに、夢講演会で困難を乗り越えた方の話を聞くということも子どもにとって魅力のある良いことだが、例えば、地域でこういう一生懸命仕事をしている人とか、農業でもよいし、他の仕事でもよいので、コミュニティ・スクールで、そういうことが課題なのかと、中学生にお話ししてくれる人を探すとか調整が図られて、話を聞いて、地域の人の思いを感じる機会になって、聞く中で仕事ってこういうことだと、そう感じる機会、形になればいいと思う。

○ 少し提案的な話だが、大綱の2番目に「教師等の資質能力の向上」ということが書かれて、本当にその通りだと思う。盛り込められないかもしれないが、例えば、都会だと大学の教育学部があって、その教育学部の先生が実際に小中学校に入られて、一緒に取組をする。そういう教えてもらったり、課題を持ってもらって先生たちが取り組んだりとか。舞鶴にはそういう環境はないので難しいとは思いますが、府内に大学もあるので、大学と公立の小中学校との一緒になった取組が図られると、そのことを通じて、先生たちが、これから目指していく教育はこういう方向だ、そのためにはこういう教育を学校の中で作っていかねばならないとか、一生懸命やる中で育っていく、資質能力が向上していくのではと思うので、それがもし可能ならば、考えてもよいのではと思う。

(内藤委員)

○ 大綱に基づいて指導の重点などが作られていくと思うが、最終的には、学校の目標等につながっていくと思う。学校は成績を上げるためにあれもこれも頑張るだろうし、それぞれの学校で、何かこれだけはやりたいという特色を、たくさん挙げられていると思うが、重点的なものももっと見ると、もっと学校の全体の動きが良くなるのではないか。大変だったがやれたなと先生が思えたら、随分変わっていくと思うので、今後、教育委員会の仕事ではあるが、そういうことも考えていければよいと思う。

(市長)

○ 義務教育だけでも教えることは山のようにある。中舞鶴小のふるさと教育とか、城北中のフジバカマの取組だとか。それぞれの学校の特色ある取組で、親や地域の人と協働作業を

するときに地域の重要性、大事さを感じる。地域と連携して取り組むことも、地域コミュニティを大事にし、思いを馳せる一つのきっかけになるので、何か学校、地域で、何か皆でやれるものが見つけられれば良いと思う。地域の中で育てられているということが子どもにとってものすごく重要だ。

(堀尾委員)

○ 乳幼児教育ビジョン推進事業のところにもビジョンの周知とあるが、大綱そのものの周知もさらに図られると、コミュニティ・スクールにもプラスになると思う。市がこんな方針でこんな取組をして、これだけ予算をかけてくれているということを知るとは、保護者にも地域の人にもすごく励みになるし、活用度もあがる気がする。詳細な計画書を読むのは紙でもネットも難しいと思うので、学年や地域懇談会でもPTAの集会でも市の講演会でも身近な施策からでもアピールしていただければ、さらに良いと思う。

(市長)

○ 子どもに関わることだが、保護者にも伝わらないと効果的ではないので、いかに保護者にも方針を伝えるかが大事。どのように伝えるかという工夫も関係者と相談して伝えることは大事。大綱は意図的に平易な言葉で、中学生でも分かる表現となっている。

(事務局)

○ 活発にご意見をいただきありがとうございました。それでは、本日の協議はここまでとさせていただきます。本日教育委員の皆さまからいただいたご意見、提案を踏まえて、次期教育振興大綱の案を作成し、改めて教育委員の皆さまにお示しさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。第2回の会議についてであります。次回は、教育振興大綱の案についてご協議いただきたいと考えております。案が作成でき次第、日程調整のうえ開催させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

閉会